

第五次子どもプラン武蔵野の評価・点検方法について

1 現在の第四次子どもプラン武蔵野の評価・点検方法（年度ごとの実施状況報告）

○平成30年度より基本的に重点的取組みに絞って評価を行うことで、事務の簡素化と、評価のわかりやすさを図った。

①「重点的取組み」について以下を作成。

- ・実施状況（アウトプット）
- ・成果（アウトカム）
- ・主管課による評価（A～C）

②「重点的取組み以外の事業」は、特記事項がある事業のみ実施状況を記載。

○しかしながら、依然として以下のような課題がある。

- ・市全体としての施策の推進状況が分かりにくい。
- ・実施状況（アウトプット）、成果（アウトカム）欄の記載がいずれもアウトプットに偏っている。
- ・主管課による評価がほとんどB（予定通り）になってしまう。

2 第五次子どもプラン武蔵野での評価・点検方法（案）

○令和元年8月1日本部会議にて、以下の点を確認している。

- ・「施策1－1」などの「施策」単位で行う
- ・評価がしやすいよう、各施策の「施策の方向性」に目的を記載しておく。

○全体像が分かりやすくなるよう、施策ごとの評価については以下のとおりとする。

- ・冒頭に、当該年度の施策全体の評価を簡潔に文章で記載する。
- ・さらに、重点事業については個別に実施状況を文章で記載。
- ・A～Cの評価付けは行わない。

（イメージ）※次回の会議で実際の評価シート案を示します。

施策〇－〇 △△△△△△△△△の推進

【施策の方向性】

・・・・・・・・・・（プランより引用 ※要約？）

【令和〇年度実績評価】

・・・・・・・・・・（施策の主担当課で全体評価について文章で記載）

重点事業実施状況

No.〇	△△事業	〈目的〉・・・・・・・・・・（プランより引用）
【令和〇年度実施状況】・・・・・・・・・・を実施し、・・・・の改善を図りました。		

※施策の主担当課についてはプラン作成時に施策の方向性等を記載した課
（複数課ある場合は今後調整）

※施策ごとの評価に加え、保育・学童など「ニーズ量の見込みと目標事業量」（第4章別表1）を設定した事業は、別途実績値を別表の形で掲載。